日本物理学会
ダイバーシティ推進委員会　活動報告

Recent activities of Diversity, Equity, & Inclusion (DEI) Committee, The Physical Society of Japan

小林 夏野[1,2]　濱口 幸一[1,3]　成木 恵[1,4]　肥山 詠美子[1,5]　宮島 顕祐[1,6]

日本物理学会[1]、北海道大学電子科学研究所[2]，東京大学大学院理学系研究科物理学専攻[3]
京都大学理学研究科[4]、東北大学院理学研究科物理学専攻[5]、 東京理科大学先進工学部物理工学科[6]

◆日本物理学会のダイバーシティ推進委員会◆

日本物理学会は1877年に創立された会員数が約15000人の学会である。本学会の女性比率は増加し続けているものの、現在も6 %程度であり、これは世界的に見ても小さな数字である。2002年に発足した男女共同参画推進委員会は2023年からダイバーシティ推進委員会と名前を変え、今後さらに多くの女性研究者が男性研究者と共に活躍し、物理学がますます発展するよう様々な活動を行なっている。以下に、この1年間の主な活動内容を報告する。

◆基本方針◆

①女性研究者の研究･教育環境を改善する事、②女性研究者を含めた次世代人材を育成する事を指針に、国内外の機関と連携して活動を行う。

◆活動報告◆

【1】米沢富美子記念賞 第5回受賞者決定

物理学会では女性会員の活躍を讃え、奨励するために2019年度に米沢富美子記念賞を設立した。毎年受賞者を選考し、物理学会年次大会において表彰している。2024年度にはその第5回募集を行い、3名の女性会員に賞を授与した。

【2】次世代教育支援

2005年度より「女子中高生夏の学校」に本学会員を実行委員会およびプログラム担当委員として派遣している。2023年度は4年ぶりの対面開催となり、全国29都道府県から98名の参加があった。本委員会の担当委員が中心となり、38の協力団体からの支援を得て実習・実験やポスター展示を行った。また、2006年度より継続的に「女子中高生のための関西科学塾」の支援をしている。2010年度から協賛金の形で支援をしてきたが、2021年度からは賛助会員として協賛し、活動にも積極的に参加している。

【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加している。

【4】国際交流

本委員会の活動内容を International Conference on Women in Physics（2023年7月10-14日）にて発表した。また、AAPPS Women in Physics WGへの本委員会委員の派遣（Chair & Vice Chair）等を行っている。

【5】年次大会での託児室の開設

物理学会では、毎年秋に全国規模の対面学術講演会を開催しており、約5,000名の研究者が参加している。大会には託児室が設置され、事前に申し込んで希望すれば誰でも利用できる。年によって人数は増減するが、託児室の利用は常に託児室の終了後は、利用者に運営向上のためのアンケートを実施し、その内容を委員会内で共有することで、 より一層の利便性の向上を目指している。

【6】春季大会・年次大会でのミーティング開催

日本物理学会にて、本委員会主催のインフォーマルミーティング（ランチョンミーティング）を開催してきた。2024年年次大会(2024年9月・北海道大学)ではランチミーティングを開催し、40人以上の参加者と活発な議論を行った。特に、近年増えている女子入学枠に関する情報交換を求める声が多かった。2023, 2024年には「外国人にとって居心地の良い物理学会とは」と題したミーティングを対面とオンラインで実施した。ミーティング後にアンケートを行い、対応できる事項の検討を行っている。

【7】広報活動

HP(https://www.jps.or.jp/activities/iinkai/dei/top.php)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している。日本物理学会誌に活動報告を掲載し、2024年9月号には学協会に関する報告を掲載した。2023年に参加したICWIP参加報告も今後掲載予定である。